

2025年3月期 決算説明会

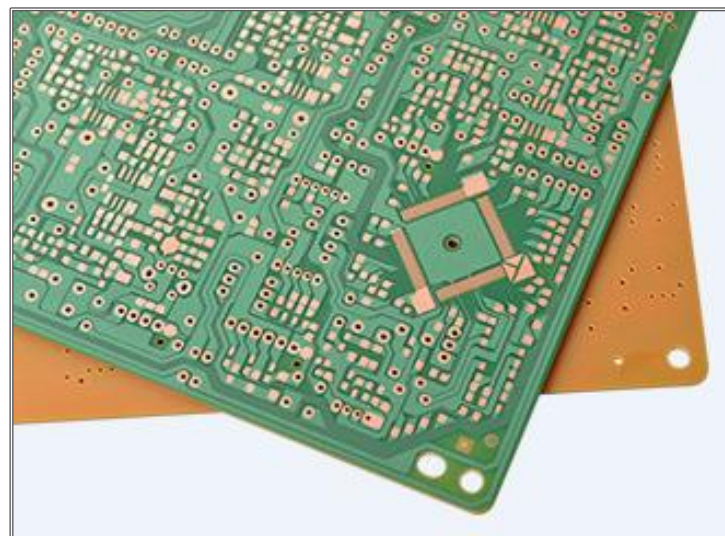
株式会社 京写

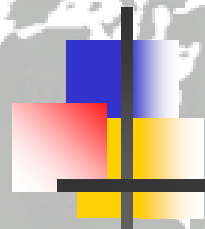
証券コード：6837

2025年 5月21日

<https://www.kyosha.co.jp/>

- I. 2025年3月期 決算概要**
- II. 2026年3月期 業績予想**
- III. 中期経営計画の進捗**
- IV. 2026年3月期の取り組み**





I. 2025年3月期 決算概要

■ 決算総括 → 連結増収・増益

- ・売上: 海外は北米市場が堅調に推移、ASEANも需要が回復
円安の為替影響もあり増収
- ・営業利益: 中国は省人化、生産性向上と高付加価値品増加で大幅増益
インドネシアは増収による増益

■ 国内の状況

- ・基板は自動車向け回復遅れとこれまでの生産調整の影響により減収・減益
- ・実装関連は産業機器向け好調で増収

■ 海外の状況

- ・中国は自動化による省人化、生産性向上と高付加価値の金属基板で大幅増益
- ・インドネシアは事務機分野等の受注回復で増収、増益
- ・ベトナムは北米向けの自動車分野の受注堅調

2025年3月期連結決算業績

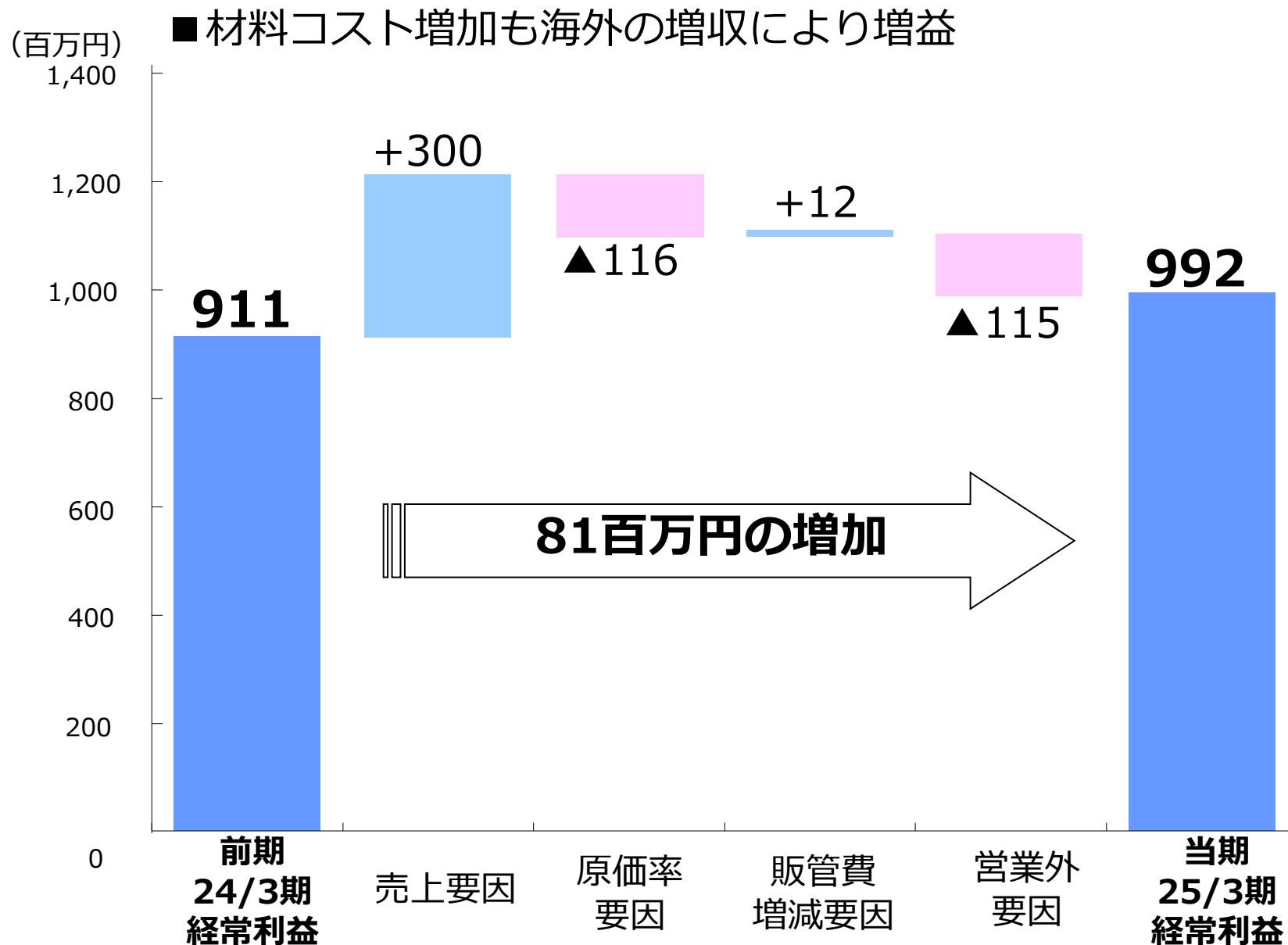


(単位：百万円)

連結	前期実績 (2024年3月期)	当期実績 (2025年3月期)	増減額	前期比
売上高	24,580	26,229	+1,649	106.7%
営業利益	1,080	1,277	+196	118.2%
経常利益	911	992	+81	108.9%
親会社株主に帰属 する四半期純利益	604	614	+9	101.6%
営業利益率	4.4%	4.9%		

為替	インドネシア	(US\$)	144.62	(US\$)	152.58	+7.96	105.5%
レート	ベトナム	(US\$)	140.56	(US\$)	151.58	+11.02	107.8%
	中国・香港	(HK\$)	17.96	(HK\$)	19.43	+1.47	108.2%

経常利益の前期比較



地域別セグメント業績

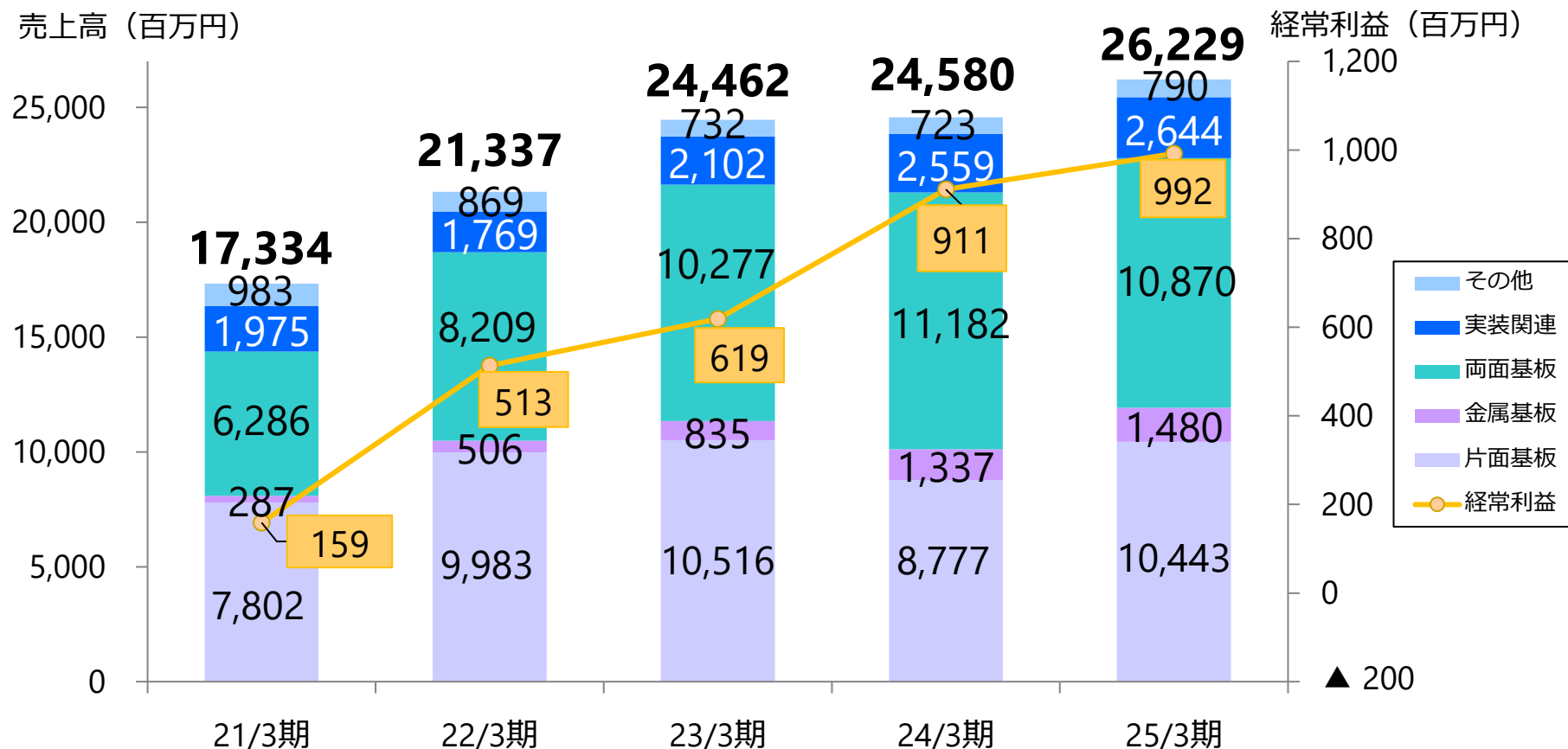


日本：自動車分野の受注低迷により減収減益
 中国：省人化、生産性向上と高付加価値品増加で大幅増益
 インドネシア：事務機分野等の受注回復により増収増益
 ベトナム：北米向けの自動車分野の受注増により増収増益

拠点		前期実績 (2024年3月期)		当期実績 (2025年3月期)		増減	
		百万円	利益率	百万円	利益率	百万円	率
日本	売上高	10,529	1.9%	10,155	—	△ 374	△ 3.6%
	営業利益	197		△ 218		△ 415	—
中国	売上高	13,074	5.3%	14,359	8.2%	+ 1,285	+ 9.8%
	営業利益	698		1,179		+ 480	+ 68.9%
インドネシア	売上高	2,128	—	2,830	0.2%	+ 702	+ 33.0%
	営業利益	△ 80		6		+ 86	—
メキシコ	売上高	131	2.7%	158	—	+ 27	+ 20.9%
	営業利益	3		△ 7		△ 11	—
ベトナム	売上高	3,844	7.0%	4,297	6.5%	+ 452	+ 11.8%
	営業利益	269		279		+ 10	+ 3.9%

※売上高にセグメント間の内部取引高を含む

■片面基板は事務機向け回復、両面基板は自動車向け減少



為替レート

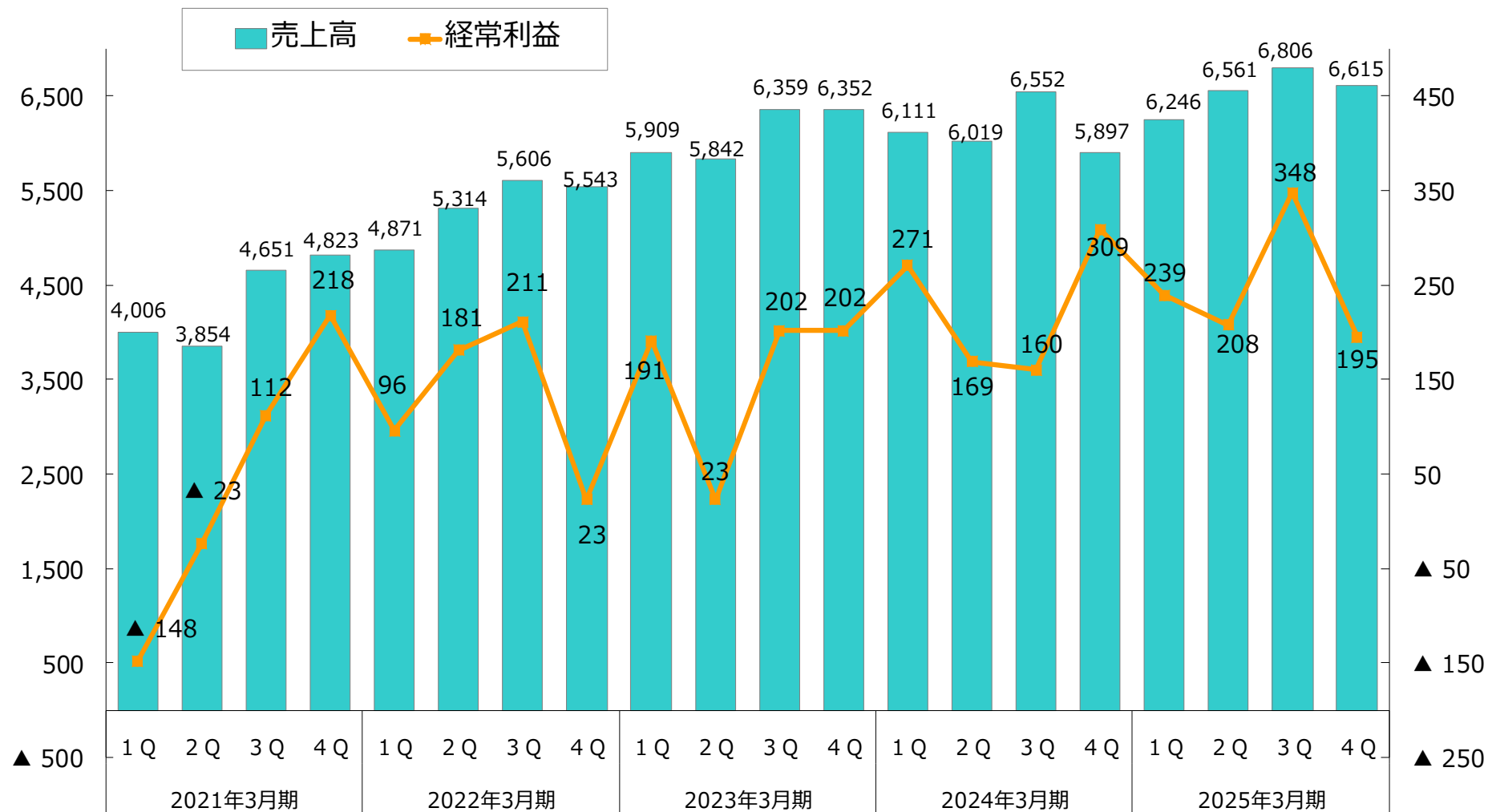
	2021年3月期	2022年3月期	2023年3月期	2024年3月期	2025年3月期
インドネシア: US\$	106.06	112.38	135.47	144.62	152.58
ベトナム: US\$	106.82	109.80	131.43	140.56	151.58
中国・香港: HK\$	13.77	14.13	16.78	17.96	19.43

※両面板に多層板と銀スルーホール基板を含む

四半期毎の業績推移

売上高（百万円）

経常利益（百万円）

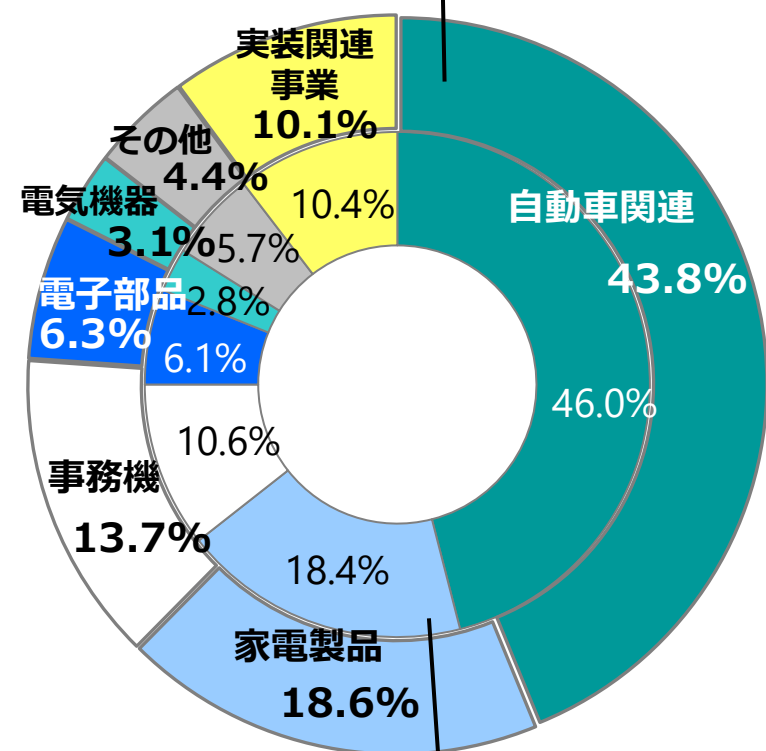


用途別売上高

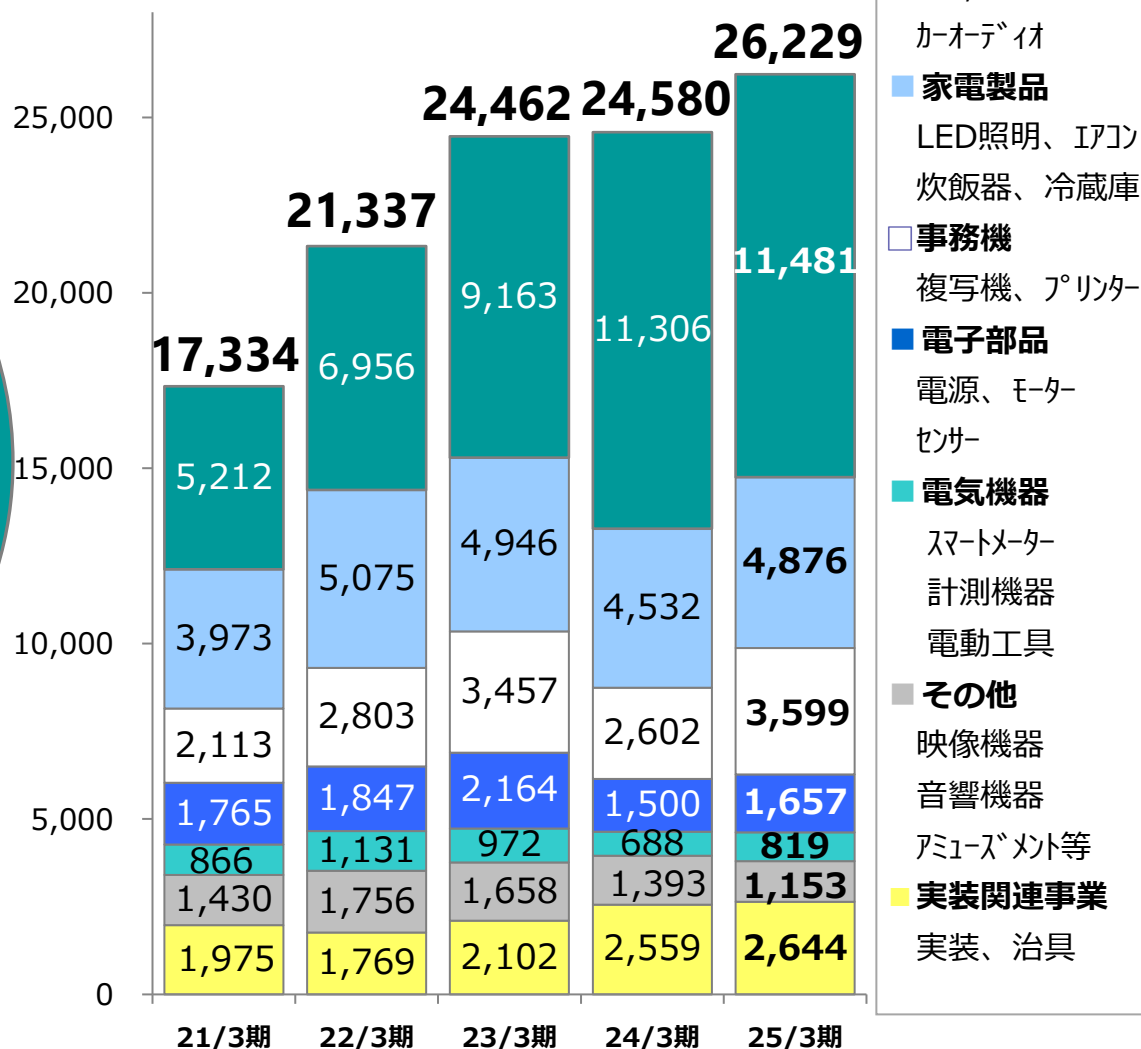
■ 海外の事務機、国内の家電製品向け売上増加

外：25年3月期（当期）

（百万円）



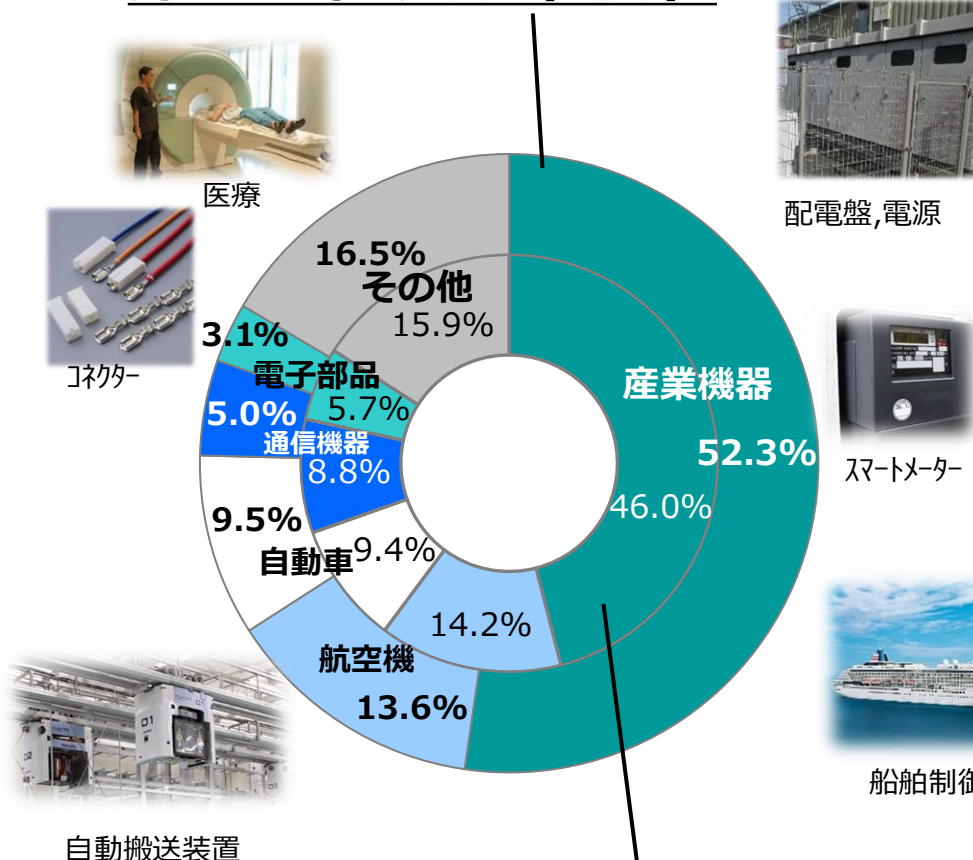
内：24年3月期（前期）



実装関連事業の用途別売上高

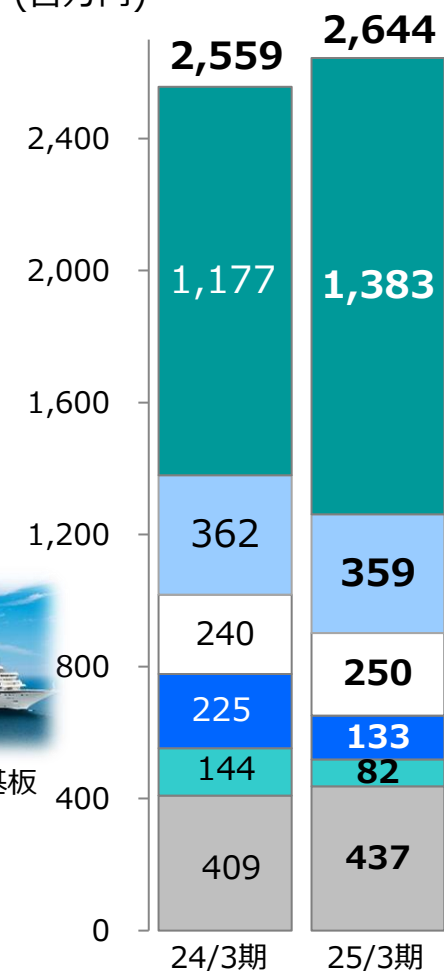
■ 主力の産業機器の受注好調

外：25年3月期（当期）



内：24年3月期（前期）

(百万円)



■ 産業機器

産業用無停電装置
配電盤、電源、スマートメーター
半導体製造装置(コンベア)
船舶制御基板 等

■ 航空機

客席周り備品
(モニター、ハンドセット、
コントローラー、Wi-Fi)

□ 自動車

ライト用治具

■ 通信機器

無線通信、光通信
(工場内自動搬送用)

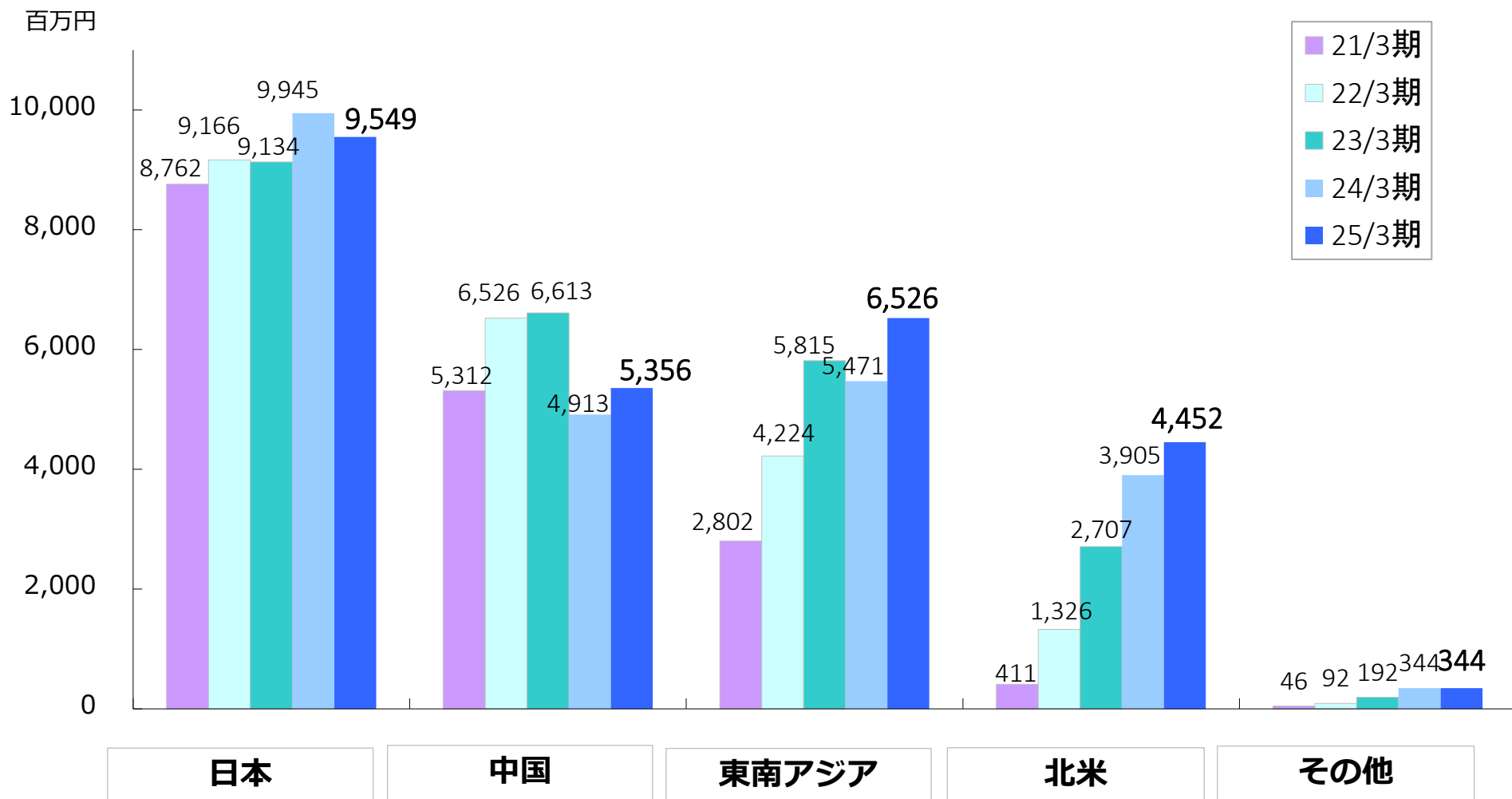
■ 電子部品

コネクタ

■ その他

販売地域別売上高推移

■ 東南アジア・北米売上増加（海外比率60%→64%）



貸借対照表



■ 財務体質の改善

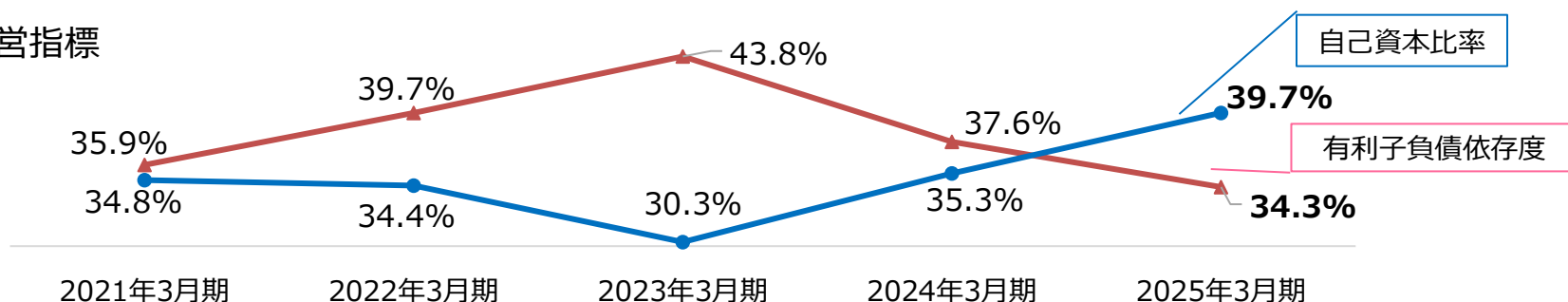
(単位：百万円)

	2021年3月期	2022年3月期	2023年3月期	2024年3月期	2025年3月期	前期比増減
資産合計	17,885	20,894	23,879	23,340	24,754	+ 1,414
流動資産	11,094	13,715	15,950	15,050	15,834	+ 783
棚卸資産	2,411	4,415	4,634	4,108	4,407	+ 298
固定資産	6,790	7,178	7,929	8,290	8,920	+ 630
負債合計	11,451	13,499	16,432	14,879	14,654	△ 224
流動負債	7,536	9,675	10,884	9,491	9,774	+ 283
固定負債	3,915	3,824	5,548	5,388	4,880	△ 507
有利子負債(長短)	6,428	8,294	10,456	8,780	8,486	△ 293
純資産	6,433	7,395	7,446	8,461	10,100	+ 1,638

為替レート

インドネシア：US\$	110.71	122.39	133.53	151.41	149.52	△ 1.89
ベトナム：US\$	103.50	115.02	132.70	141.83	158.18	+ 16.35
中国・香港：HK\$	13.35	14.75	17.02	18.15	20.38	+ 2.23

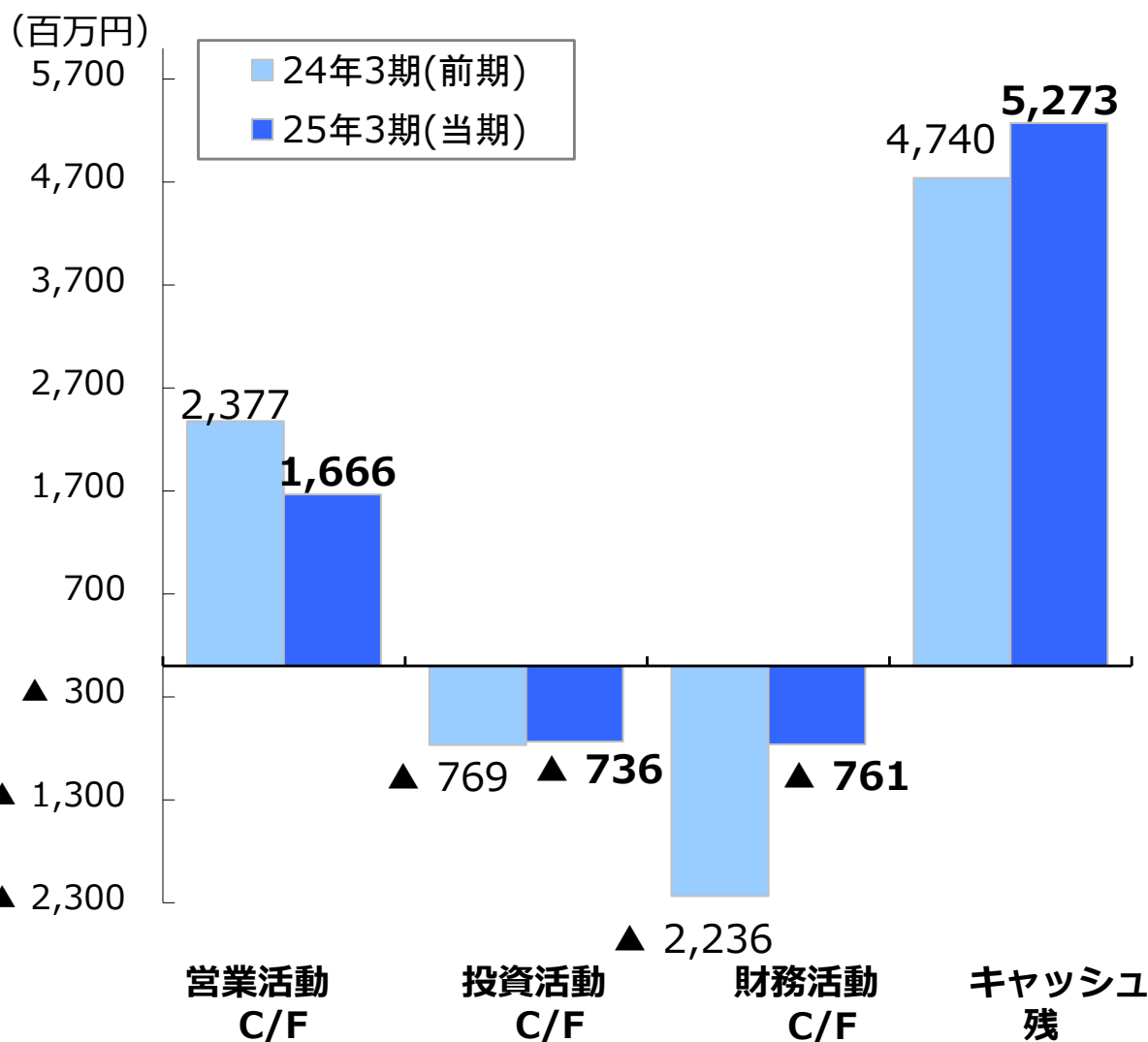
■ 経営指標



キャッシュ・フロー計算書



■ 安定した営業C/Fの確保



<特記事項>

営業活動C/F 1,666 百万円

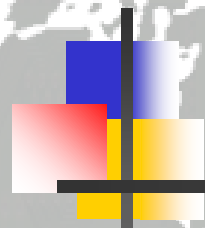
税引前利益	960百万円
減価償却費	1,115百万円
売上債権の減少	584百万円
棚卸資産の減少	25百万円
仕入債務の減少	▲775百万円
利息の支払額	▲367百万円
法人税等の支払	▲359百万円

投資活動C/F ▲736百万円

有形固定資産等の取得	▲677百万円
国内 金属基板設備	
各社 生産設備	

財務活動C/F ▲761百万円

短期借入金純増減	▲170百万円
長期借入金純増減	▲386百万円
配当金の支払	▲151百万円



Ⅱ. 2026年3月期 業績予想

2026年3月期 連結業績予想

(単位:百万円)

連結	業績予想 (2026年3月期)	前期比	前期実績 (2025年3月期)
売上高	27,000	102.9%	26,229
営業利益	1,600	125.3%	1,277
経常利益	1,200	120.9%	992
親会社株主に帰属する 当期純利益	800	130.2%	614
配当(円)	14.00	+3.00	11.00
配当性向(%)	25.4%	—	26.0%
US\$為替レート	145.00	—	152.58
			151.58
HK\$為替レート	18.64	—	19.43

インドネシア
ベトナム
中国・香港

※2026年3月期の業績予想には、米国の関税政策による影響を現時点において合理的に見積もることは困難なため、織り込んでおりません。

2026年3月期 中期経営目標の見直し

(単位:百万円)

連結	前回発表 (2026年3月期)
売上高	30,000
営業利益	1,600
営業利益率	5.3%
ROE	10%



見直し後目標 (2026年3月期)
27,000
1,600
5.9%
8%

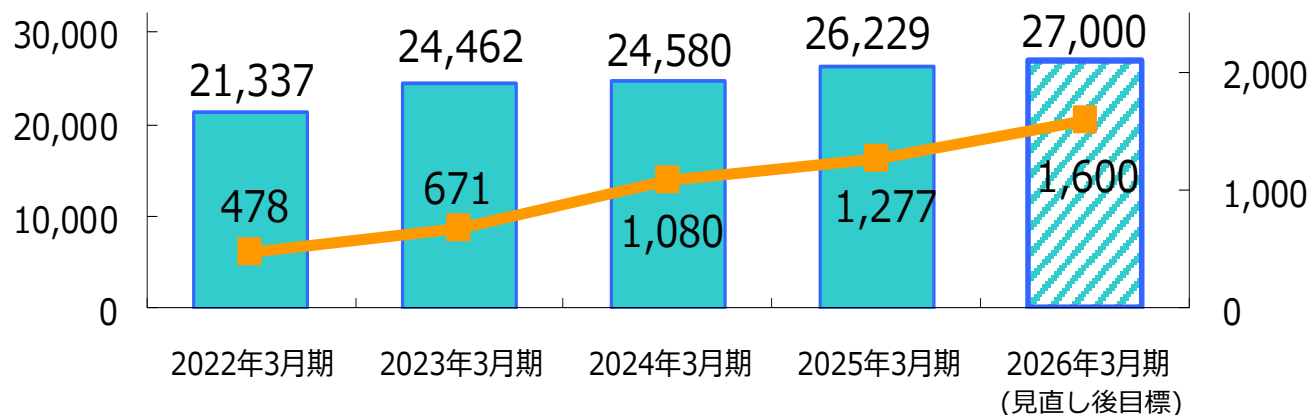
- 売上高:国内の自動車の減産、中国の景気停滞など環境変化の影響により見直し
- 営業利益:グループで収益性の向上、経営全般にわたる効率化をさらに推し進め、利益確保を目指す
- ROE:為替変動の影響で見直し

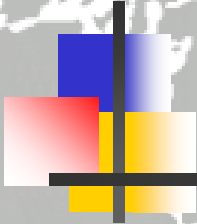
売上高 (百万円)

売上高

営業利益

営業利益 (百万円)





Ⅲ. 中期経営計画の進捗

2022年3月期～2026年3月期（5年計画）

経営ビジョン

一流になる

スローガン

Build Trust（信頼関係の構築）

基本戦略

企業間連携を最大活用し、独自技術に磨きをかけ
グローバルニッチトップメーカーになる

6つの重点戦略

- | | |
|---------------|-------|
| ①グローバル生産・販売戦略 | ④技術戦略 |
| ②企業間連携戦略 | ⑤財務戦略 |
| ③効率化戦略 | ⑥人財戦略 |

中期経営目標 進捗状況

経営目標

2026年3月期

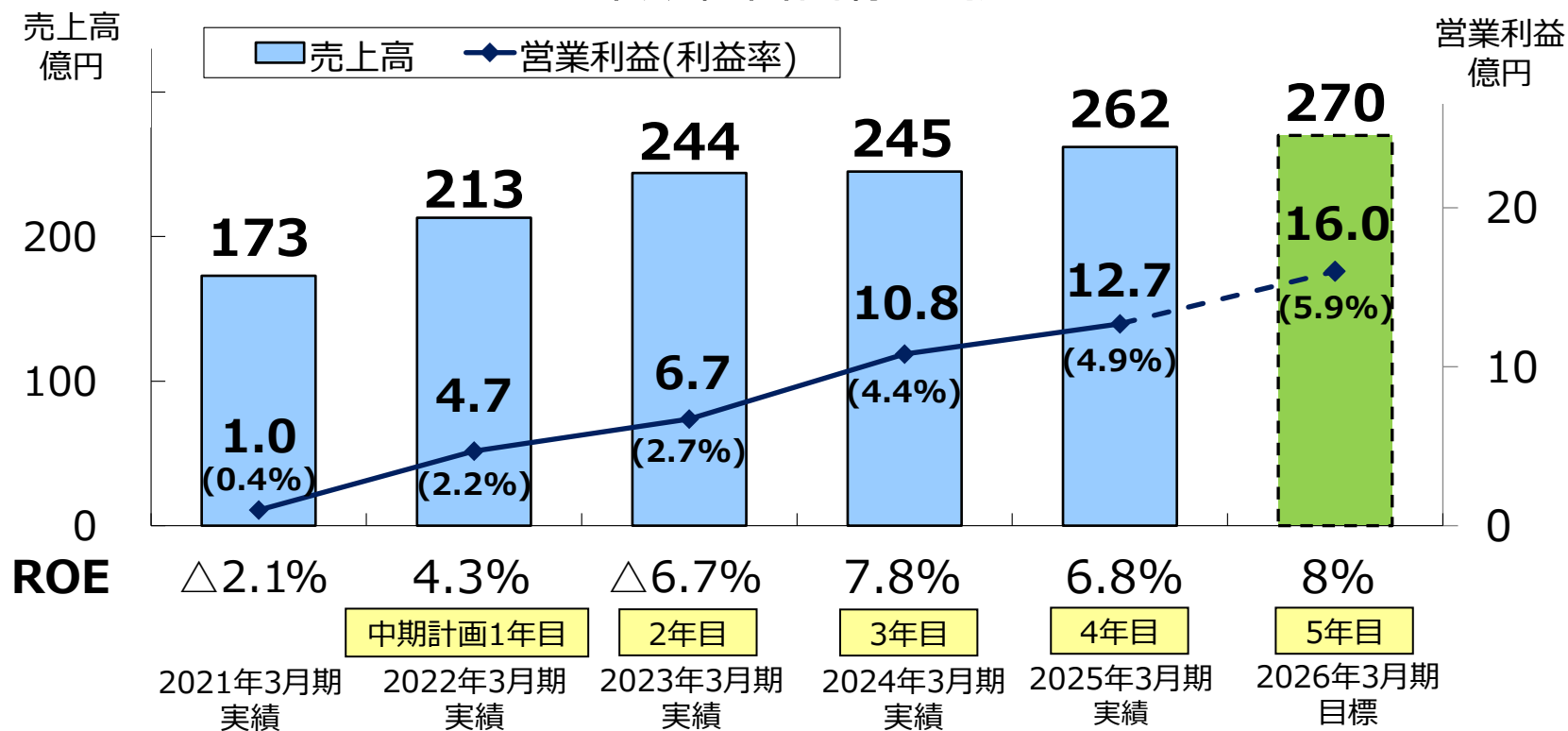
売上高 270億円

営業利益 16億円

営業利益率 5.9%

ROE (自己資本利益率) 8%

中期経営目標 進捗



中期経営目標 セグメント別進捗状況

■ 21年3月期比売上+89億円・営業利益+11億円の増加、中国・ベトナム拠点の大幅拡大

セグメント業績		2021年3月期実績		2025年3月期実績		中期計画進捗 25/3期－21/3期		進捗状況
		百万円	利益率	百万円	利益率	百万円	率	
連結	売上高	17,334	0.6%	26,229	4.9%	+8,895	+51%	中国で高付加価値品の量産化、ベトナム拠点の確立 北米・ASEANの自動車向け増加
	営業利益	98		1,277		+1,179	－	中国の省人化、自動化による生産性向上と 高付加価値品の増収による大幅増益 ベトナムの大幅増収と効率生産による増益
日本	売上高	9,042	－	10,155	－	+1,113	+12%	自動車の減産により基板の減少 実装関連の好調
	営業利益	△ 59		△ 218		△ 159	－	基板の減収および原材料・経費・人件費等の高騰 により減益
中国	売上高	8,582	5.5%	14,359	8.2%	+5,777	+67%	高付加価値の金属基板の量産化 北米向け外作両面基板の増加
	営業利益	473		1,179		+706	+149%	金属基板の増加、片面基板の生産量減に合わせた 人員体制(30%減)、自動化による生産性向上
インド ネシア	売上高	1,472	－	2,830	0.2%	+1,358	+92%	内作基板単価上昇 ASEANの自動車向け外作両面基板の増加
	営業利益	△ 81		6		+87	－	増収による増益（黒字化）
ベトナム	売上高	－	－	4,297	6.5%	+4,297	－	21年1月生産開始、23年8月第2ライン導入 北米・ASEANの自動車向け好調
	営業利益	△ 244		279		+523	－	設立5期目(24/3期)に大幅黒字化 自動化工場による効率生産、好調を維持

①グローバル生産・販売戦略 ②企業間連携戦略の進捗

①グローバル生産・販売戦略

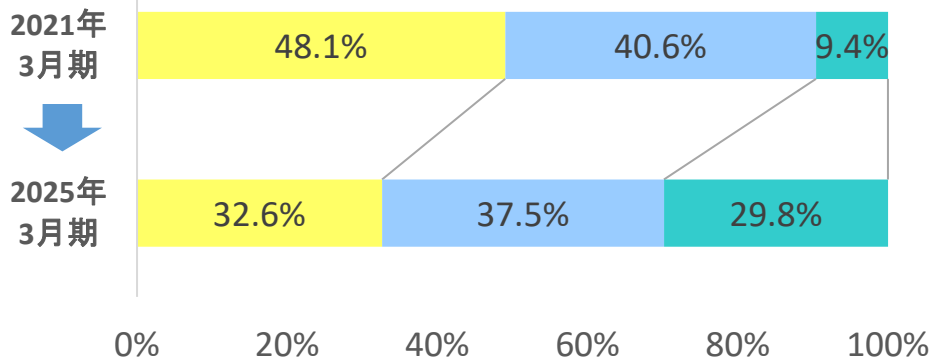
重点施策

- ①最適な供給網の再構築
- ②車載・再生エネルギー分野向け両面・金属基板事業の拡大
- ③片面シェア拡大による業界最大の利益確保
- ④基板・実装・治具の販売シナジー最大化

■ベトナム拠点の確立により最適供給網を構築

各拠点の生産割合

■ 日本 ■ 中国 ■ ASEAN



■車載分野の拡大

2021年3月期 52億円 ⇒ 2025年3月期 114億円

②企業間連携戦略

重点施策

- ①顧客・仕入先との連携、技術の共同開発
- ②同業他社との相互補完関係の構築

■顧客・仕入先との連携、技術の共同開発

- ・総合化学メーカーからの金属基板事業の受託、国内生産拡大
- ・材料メーカー、医療機器メーカーと連携によるPE基板の開発
- ・化学メーカーとの連携によるマジキラー樹脂開発

■同業他社との相互補完関係の構築

- ・メイコーとの連携によるベトナムでの生産の相互補完関係の構築
- ・四会富仕グループとの業務提携による多層板のグローバル販売の開始

③効率化戦略 ④技術戦略の進捗

③効率化戦略の進捗

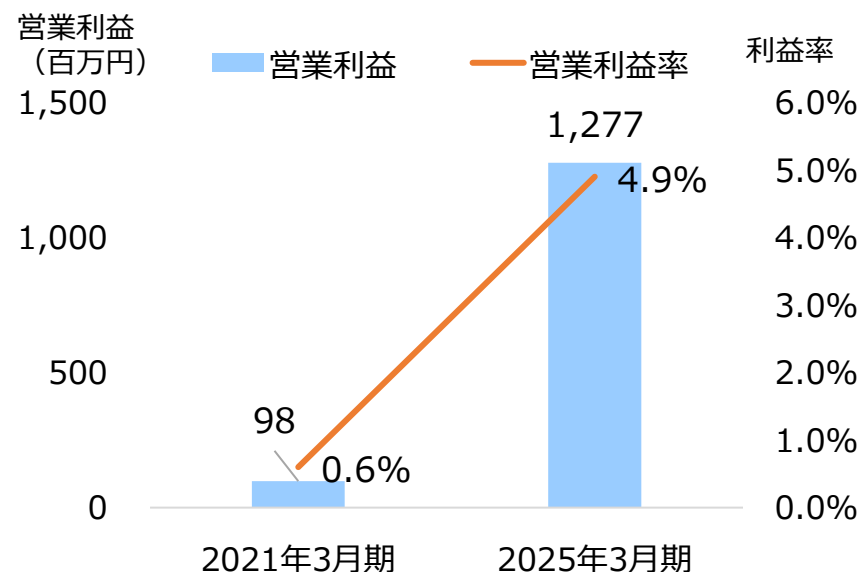
重点施策

- ①自動化、IT化による生産効率向上
- ②DX活用による業務効率化推進
- ③トヨタ生産方式の水平展開

■ 2026年3月期目標

営業利益16億円 利益率 5.9%

中国の生産自動化による省人化(人員30%減)、
ベトナムのIT化自動化により順調に推移



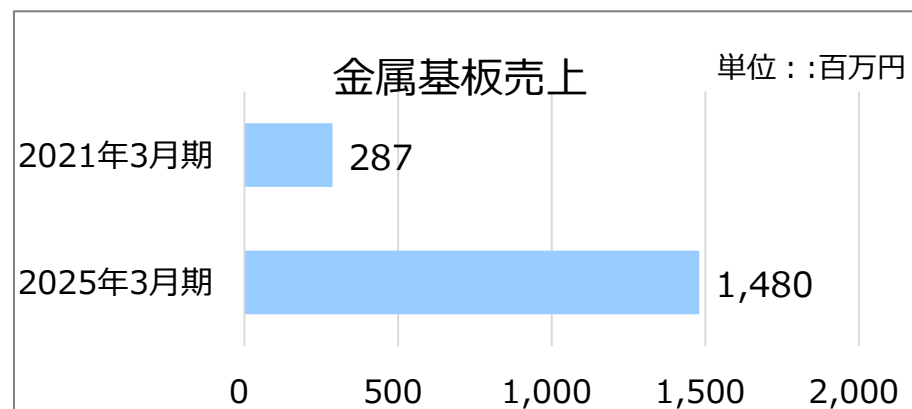
④技術戦略の進捗

重点施策

- ①市場ニーズに基づく開発資源の集中
- ②超厚銅基板の技術確立
- ③付加価値のある印刷技術の追求
- ④生産技術を活用した新用途・新工法の開発

■ 環境対応製品の売上目標 10億円

印刷法の金属基板量産により売上高
2025年3月期実績 **14.8億円**



⑤財務戦略 ⑥人財戦略の進捗

⑤財務戦略の進捗

重点施策

- ①持続的成長に向けた集中と選択による投資
- ②自己資本の強化
- ③持続的・積極的な株主還元

2026年3月期目標 ROE 8%

配当性向25%

- ・ベトナム拠点への投資、24/3期より利益計上(投資回収の開始)、インドネシア拠点の設備投資
- ・収益力強化、借入金返済で自己資本比率改善
- ・持続的・安定的な株主還元の実施

実績	2021 3月	2022 3月	2023 3月	2024 3月	2025 3月
自己 資本 比率	34.8 %	34.4 %	30.3 %	35.3 %	39.7 %
ROE	△2.1 %	4.3%	△6.7 %	7.8%	6.8%
配当 (配当 性向)	0円 -	5円 24.8%	3円 -	10円 23.9%	11円 26.0%

⑥人財戦略の進捗

重点施策

- ①社員満足度の向上
- ②多様な人材能力の発揮
- ③マネジメント人材の育成
- ④信頼と安全の体制づくり

■ ESG活動のPDCA推進体制を構築

E (環境)

太陽光発電の導入

三和電子 使用量の14%を太陽光で発電
年間約173tのCO2を削減

京写ベトナム 2025年1月発電開始

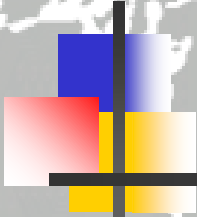
S (社会)

- ・健康優良企業の「銀の認定」を取得
- ・譲渡制限付き株式(RS)報酬制度を導入
- ・階層別人材教育、グローバル研修の実施

G (ガバナンス)

ガバナンス体制の強化

(監査等委員会設置会社へ移行等)



IV. 2026年3月期の取り組み

2026年3月期目標達成に向けた取り組み

■ ROE 8 %達成のため収益力と資産効率を高め、財務基盤(自己資本)の強化を図ります

2025年3月期 実績

2026年3月期 目標

施策・取り組み

売上高
262億円

営業利益
12.7億円

営業利益率
4.9%

ROE
6.8%

PBR
0.55倍



売上高
270億円

営業利益
16億円

営業利益率
5.9%

ROE
8%

PBR
1倍以上

収益力の 強化

- ・国内事業の最適化による収益改善
- ・高付加価値製品の金属基板拡大
- ・自動化・DXによる効率化
- ・ASEAN拠点の生産能力向上

資産効率性 の改善

- ・成長事業への投資による事業拡大

財務バレッジ の改善

- ・成長投資と株主還元のバランスを図る

成長・サステナ投資

株主
還元
有利子
負債返済

取り組み①－③効率化戦略、④技術戦略－ 国内事業の最適化による収益改善

■背景：原材料、エネルギーの高騰、為替変動等の環境変化、新たな成長分野、市場ニーズへの対応

■販売価格の適正化による利益増

・これまでコスト削減や効率化に努めるも、環境変化に対応するため販売価格の適正化を図る

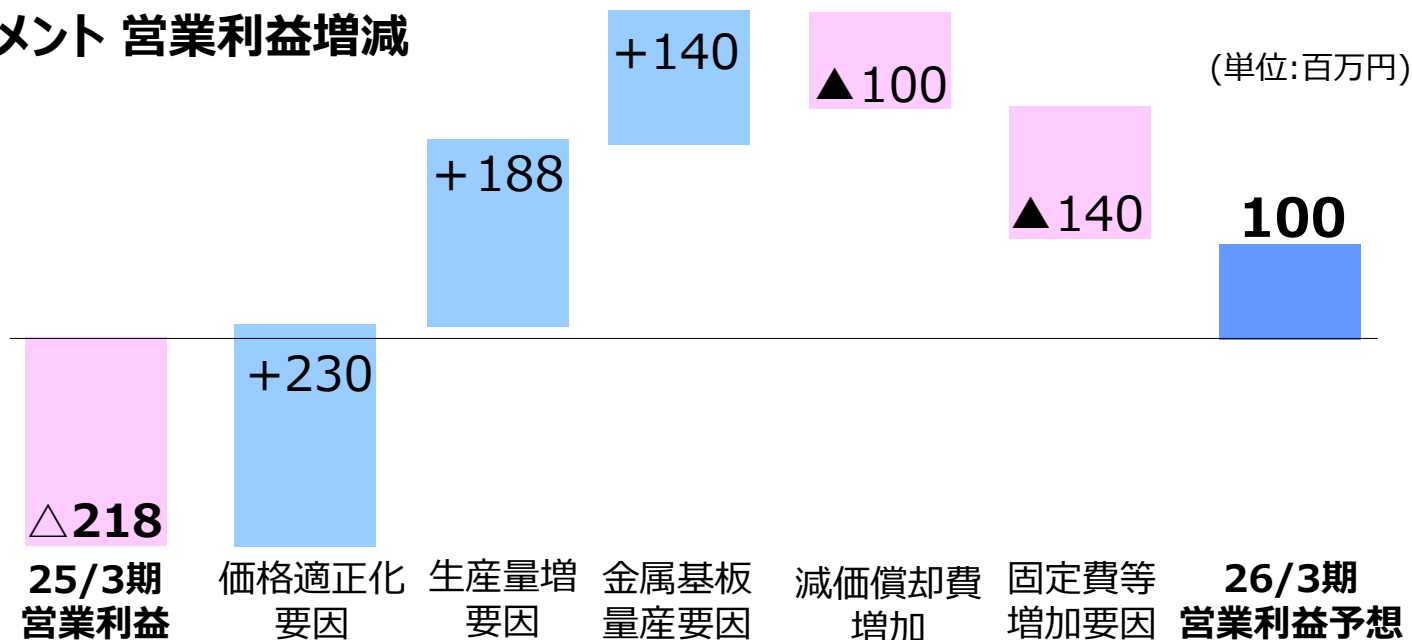
■生産量の増加による利益増

- ・金属基板の設備投資による車載LEDヘッドライト、エネルギー分野の売上取込み
- ・家電製品(LED照明、炊飯ジャー等)の国内需要の増、自動車向け新規受注の獲得

■生産体制の再構築による生産性向上

- ・量産、少量多品種工場の区分明確化(棲み分け)
- ・設備投資と生産技術力による少量多品種工場に適した工程改善(生産性向上)

■日本セグメント 営業利益増減



金属基板の拡大

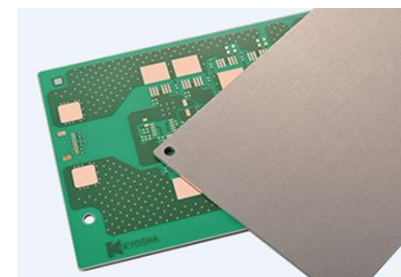
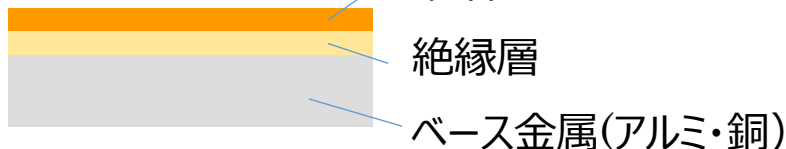
■ 金属基板は順調に生産量を拡大、2025年4月より九州工場での量産開始

- ・九州工場の販売計画 2026年3月期 2億円
- ・グループの販売計画 2026年3月期 21億円（前期比44.6%増）

「**金属基板**」は素材がアルミ等の金属で、放熱性が高く**自動車向けLEDヘッドライト、パワー半導体**などの高い熱を発する製品での需要が拡大

金属基板は片側のみに配線があり、
当社の主力製品の片面プリント配線板と
同じ構造

金属基板の構造



金属基板(アルミベース)

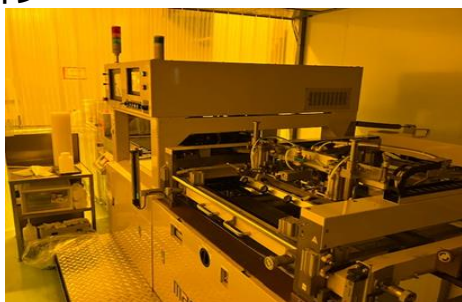
■ 当社の金属基板の特徴

- ①「**スクリーン印刷**」で製造、他社製法の「写真法」と比べ約 2 倍の生産性
- ②印刷精度は写真法で生産した製品と同等の品質
- ③上記による高い価格競争力

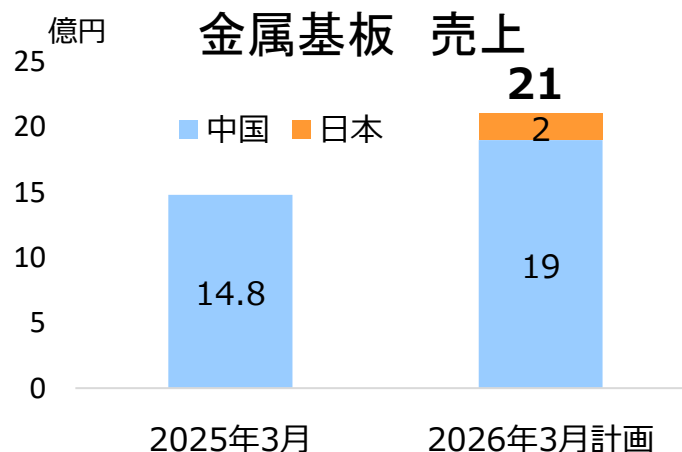
■ 九州工場 金属基板の製造ライン



金属基板 前処理装置



レジスト 印刷機



取り組み③ –①グローバル生産・販売戦略、③効率化戦略– インドネシア拠点への自動化設備投資

■背景

中国リスク（経済安全保障、関税、サプライチェーン等の問題等）によりASEANから基板の調達を求める需要増に対応するため京写インドネシアに**新規生産ラインを導入し、収益拡大を図ります**

■ターゲット製品

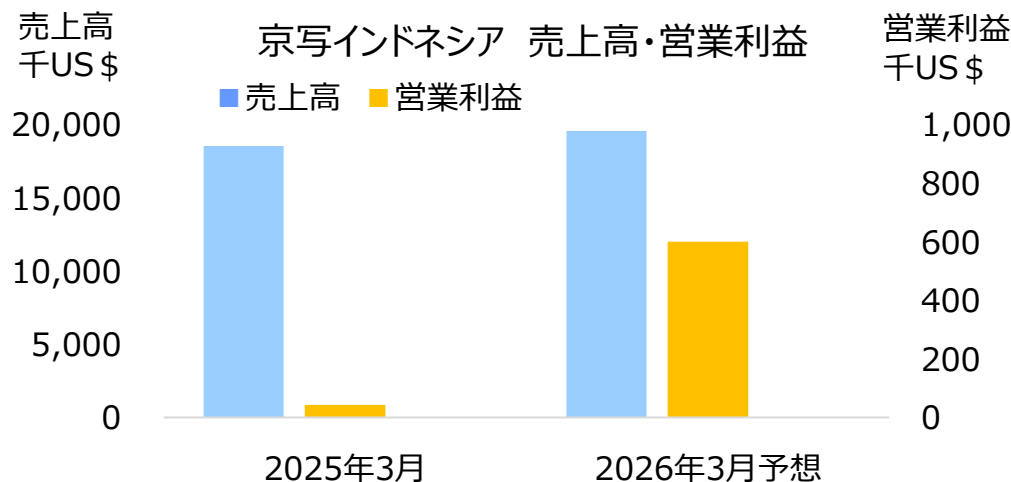
事務機（プリンター、複写機）、エアコン

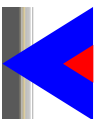
■設備投資の内容・金額

片面基板新生産ライン一式
投資金額 3.3億円(USD2,300千)

■投資効果 生産性・品質の向上、高精度な製品の製造による受注拡大 (2028年3月期までに販売量1.5倍を見込む)

■稼働時期 2025年5月より稼働開始

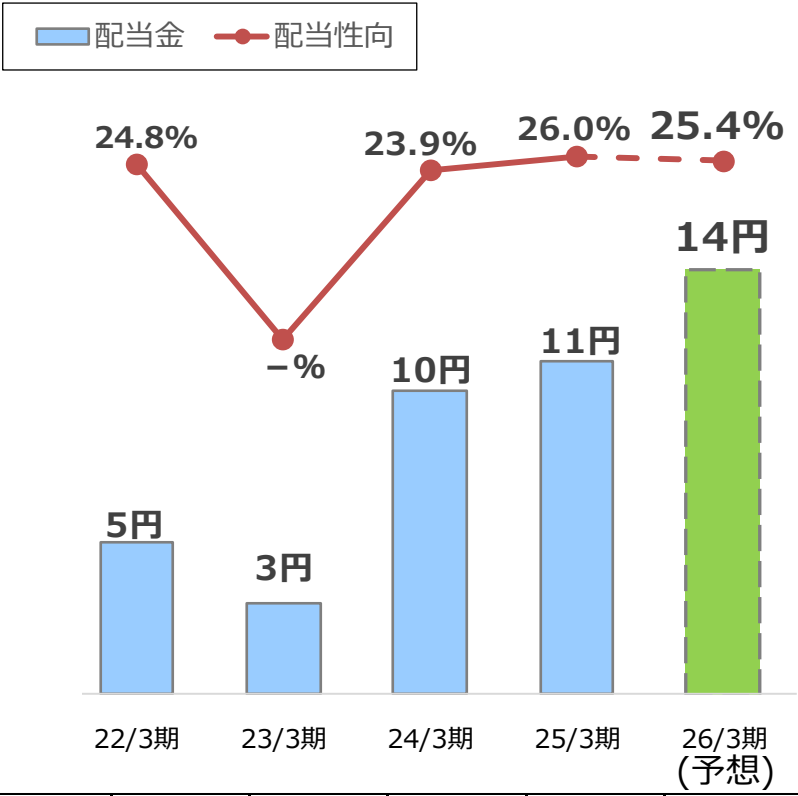




株主還元

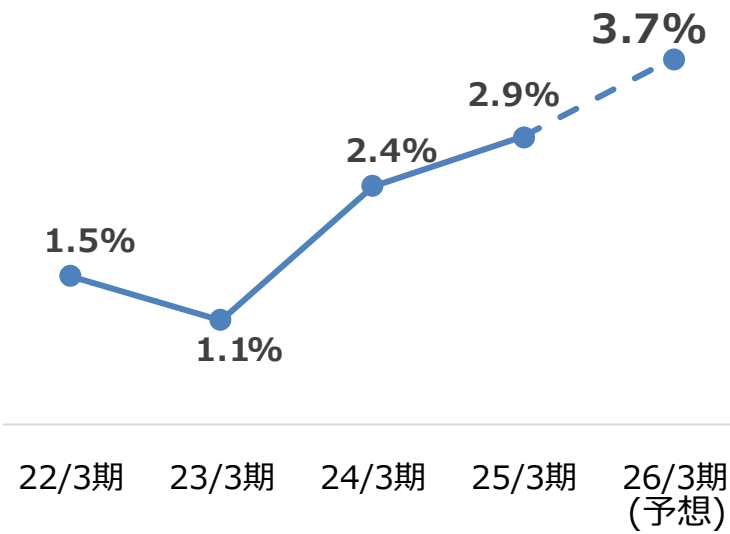
- 26/3期 1株当たり配当金は**14円**を計画
- **配当性向25%**を目指す

1株当たり配当金、配当性向推移



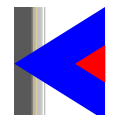
1株当たり 当期純利益	20.18円	△33.78円	41.91円	42.37円	55.16円
----------------	--------	---------	--------	--------	--------

配当利回り



期末株価	336円	284円	420円	374円	374円
------	------	------	------	------	------

(※)
※26/3期予想「配当利回り」は2025/3/31終値をもとに算定



業績見通しについて

本資料には、当社グループの将来の計画や戦略、業績に関する予想及び見通しの記述が含まれています。これらの記述は過去の事実ではなく、当社が現時点で把握可能な情報から判断した仮定及び所信にもとづく見込みです。

また経済動向、市場需要、為替レート、税制や諸制度等に関わるリスクや不確実性も多分に含んでいます。それゆえ実際の業績は当社の見込とは異なる結果となる可能性があることをご承知おき下さい。

<お問い合わせ先>

株式会社京写

経営管理本部 経営企画部

HP: <https://www.kyosha.co.jp>

TEL:075-631-3193

FAX:075-631-8370

E-MAIL: ir@kyosha.co.jp